

令和7年度

徳島市川内北小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○自分や友達の思いや考えを大切にし、主体的に表現できる子どもの育成
○自ら課題を見出し、めあてをもって粘り強く学習に取り組むことにより、成長を実感できる授業の実践

校長

麻植 稔夫

学力向上推進員

山田 剛大

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

○次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な力は身に付いている。 ●基本的な学習習慣が身に付いていない児童がいる。 ●語彙力・表現力に課題があり、人や場面に合わせた表現が苦手な児童がいる。	・学年の実態に応じた読み・書き・計算の基礎的・基本的な力を身に付けることができる。 ・教員や友達の話をしっかりと聴き、自分の意見を伝えることができる。	・「川北スタンダード」の徹底を図り、児童の実態に合わせて、見通しがもてる学習活動を設定する。 ・「朝読」、「朝活」の時間を確保することにより、語彙力を高める。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分の考えを積極的に発表することができる。 ●友達の意見を聴いて、考えを深めたり、発展させたりすることに課題がある。	・話し合い活動を通して、相手の意見を踏まえながら、自分の考えをより深めることができる。	・タブレット端末やホワイトボードを活用し、友達と意見を交換したり、理由を共有したりすることができるようにする。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○与えられた課題には、一生懸命に取り組む児童が多い。 ●自ら課題を見付けたり、課題解決に向けて主体的に取り組んだりすることに苦手意識がある児童が多い。	・振り返りを活かすことにより、新たな自分の課題や問いを見出すことができる。 ・生活経験や既習事項と結び付けて、新たな自分の課題や問いを見出すことができる。 ・グループ活動や話し合い活動を通して、友達の意見や考えを認めたり、感想を発表したりすることで、お互いの良さを共有することができる。	・発達段階に応じて、児童が課題解決に向かうための手引きや場の設定等の工夫をする。 ・めあてやねらいを明確にしたうえで、活動の見通しがもてる学習内容を計画する。			